

こども新聞
週刊

がほピョンプレス

毎週日曜発行

2025 9/7

河北新報社 TEL.022-211-1111(月曜から金曜)



きょうのテーマ

みんなの将来

みんな動こう

みんな知りたい

みんな守ろう

みんなトモダチ

縄文時代の人々の暮らしは？

ニュース



こども記者が取材



山田さん（右）の説明を聞きながら国宝「合掌土偶」を見学する中学生記者

今から約1万6000年前、縄文時代の人々はどんな暮らしをしていたのだろう。縄文時代が1万年も続いた理由は――。縄文時代は、北海道と北東北の遺跡群が世界文化遺産に認定され、世界的に注目を集めていま

特別展は①縄文文化1万年の歩み②縄文人の一生③1年の暮らしの3章構成で、東北各地の遺跡から出土した国宝や重要文化財など約420点



す。宮城県内の中学生記者10人が、多賀城市の東北歴史博物館で開催中の特別展「世界遺産 縄文」（15日まで）を取材し、縄文人の実態に迫りました。（8面に関連記事）

土偶で安産祈願 新説も

が展示されています。同館の学芸員山田凛太郎さんが案内してくれました。注目は30年ぶりに「里帰り」した、宮城県大崎市の恵比須田遺跡から出土した遮光器土偶です。目が、雪の反射を防ぐために北方民族が使用する遮光器に似ていたため、その名前が付きましました。

国宝「合掌土偶」（青森県八戸市・風張1遺跡）は、しゃがんで手を合わせる姿の土偶です。中学生記者が「土偶が作られた目的は何ですか」と質問すると、山田さんは「非常に丁寧な作りで、妊娠した女性をかたどったものが多いです。安産や子どもの無事の成長を祈る道具だったと考えられます」と答え、「ただ、今も新説が出ています」と補足しました。縄文人はどんな風にコミュニケーションを取っていたの？中学生記者の疑問には「例えば、遮光器土偶は東北各地で見つかっています。文字はなかったと思いますが、同じ形が作れるというこ

とは、高度なコミュニケーションができていたのは間違いない」と山田さん。何らかの言語があった、仲が良く頻繁に行き来していたことなどが考えられるそうです。



他にも、遠方から運ばれた石材や装飾具などが発見されており、盛んに交流していたと言われています。

縄文時代が長く続いた理由について、山田さんは「定住して1万年も平和に生きていたというのがある意味、異常です。人口密度がちょうど良く、自然の恵みを上手に利用して調和した暮らしだったと言えます」と解説しました。

【参加した中学生記者】
宮城教育大付属中2年安本遙さん(13)、渡辺明依さん(13)▽仙台市仙台南陵中等教育学校3年田中瑞己さん(14)、本美芽紗さん(15)▽石巻市桃生中3年亀山真緒里さん(15)、高橋真美さん(15)▽登米市南方中2年高橋渚さん(14)、高橋悠清さん(14)▽女川町女川中2年阿部寛大さん(13)▽松島町松島中1年田多野莉乃さん(12)

この日 何の日

◇13日(土) 伊豆沼・内沼ラムサル条約登録40年
宮城県北の伊豆沼・内沼は40年前のこの日、ラムサル条約湿地に登録されました。湖沼面積は県内最大級の387ヘクタール。夏はハスの花の名所、秋・冬はマガンやハクチョウの越冬地として知られています。

きょうの紙面

2面 みんなのギモンに こたえるモン
3面 3分チャレンジ
4・5面 わが校わがまち スクール通信
6面 キホンがわかる こども英語
7面 投稿特集
8面 こども記者が取材 もっと教えて